

キャロライン・ケネディ駐日米国大使が先月22日、「日米のパートナーシップとグローバルシチズンの役割」をテーマに東京大学で講演を行なった。ケネディ大使は、集まった学生にグローバル化の問題や意義を説明し「飛ぶ前に見よ」という言葉を引用して、海外留学により新しいことを実践、異文化を経験することの重要性を述べた。

このケネディ大使が述べた「飛ぶ前に見よ」という言葉の意味は、海外留学または研修に行く際に、事前によくその国の情報を調べ現地に赴いた際に、より多くのことを深く吸収せよ、という意味だと解釈した。現在では、インターネットが発達し簡単にその国の情報を調べることができ、文献に関しても様々なものがあるため学生であっても自分たちで調べることは出来る。マレーシアは、日本とは多くの点で異なっている国である。気候・食べ物・人種そして大きいところでいえば宗教である。先月、シリアで起きた悲慘なテロは、イスラム教の中でもほんの一握りの人々が起こしたもので、普通のイスラム教徒の人々は平穏にお互いのことを思い合いながら生活している。しかし、実際のマレーシア・クアラルンプールの状況はよく分からない。現地の情勢も含めて、リサーチする必要がある。

私は、17歳の時、一度マレーシアを訪れたことがある。その時は、当時の学校で行なわれた研修で行ったのであった。当時は異文化交流ということで、私たちの学校が留学生として受け入れを行なっているマレーシアの学校との交流が目的であった。日本とマレーシアとのこれまでの関係や文化的側面を学んでから研修に臨んだ。郷に入っては郷に従えという通り、日本でしていいことがマレーシアではタブーとされていたり知らなければ相手を侮辱したりしてしまうことが多々あったように思う。しかし、それももう4年も前のことなので、もう1度新たに学び直すべきだと感じている。

今回の研修では、メンバーの皆さんが生物資源あるいは生物に関して勉強されている方々ばかりなので、より専門的なところを見ると期待できる。マレーシアで現在研究されている最先端のテクノロジーや、古来より伝承されているマレーシアの地に根付いた農業や林業の技術等、見るべきものは多々ある。それらを効率よく吸収してくるためにも自分たちで事前に調査していこうと思う。また、勉強面だけでなくマレーシアの文化的側面も同時に学べるように計画を立てていこうと思う。